

2017春季生活闘争

J R 連 合 F A X ニ ュ ー ス

No. 17

2017年2月23日

日本鉄道労働組合連合会

JR東海ユニオン 第1回団体交渉開催

組合員の「労苦と労働の価値」への評価を主張！

経営の根底を支えるグループ・協力会社の賃金・諸労働条件の向上も求める

JR東海ユニオンは、2月21日、2017春闘第1回団体交渉に臨み、要求趣旨について主張を展開し、会社側と議論を交わした。

組合側は、安全・安定輸送を確保し続ける中、会社施策に実直に取り組んできた組合員の「労苦と労働の価値」を改めて評価するよう主張した。さらに、JR東海の経営を根幹から支えるグループ会社、協力会社の存在意義にも言及し、JR東海連合の仲間の貢献に対して、賃金・労働条件の底上げを求めた。

組合側の要求趣旨説明に対し会社側は、「とりわけ米国の政策が日本経済に及ぼす影響は見通しにくく、予断を許さない。社会的使命や固有の経営課題を考慮すれば引き続き経営体力を強化しなければならない」と厳しい見解を示した。その上で「今後の会社の将来を見据えた大局的な観点から、真摯に議論したい」と考え方も示した。

JR東海ユニオンは、組合員から出された意見解決に向け、4年連続ベア獲得に向け、2017春闘を全力で臨むこととしている。